

黄金の丘にそびえ立つ仏舍利塔

ワット・サケット (タイ)

344段のらせん階段は、ここでしか見ることができない絶景への入口。
その頂上では、将来の夢に向かう大学生が一心にお祈りしていました。

丘の上にはそびえ立つワット・サケット



らせん階段に吊るされるたくさんの鐘



そんなに上ると考えるとゾッとしていますが、途中には疲れを感じさせない仕掛けがたくさんあります。何より最後まで上った人にしか見ることができない絶景が待っているのです。

階段の途中には色も形も様々なたくさんの鐘が吊るされています。ちょっと足を止めて、カランカランと鳴らしながら進むといいでしょう。鐘には煩惱を払い、功德を積むという意味がありますから、一つひとつに思いを込めて鳴らせば、だんだんと心が洗われるような気持ちになるかもしれませんね。

私がすごく気になったのが、このお地藏さんたち。

国王3代にわたって建立されたお寺

タイの首都バンコク。平坦な土地が続くなか、遠くからでもよく見える小高い丘の上に、金色に輝く仏塔があります。ここは仏舍利が納められていることでも有名なワット・サケットです。タイの人には「プー・カオトーン」、正に「黄金の丘」の名で親しまれています。

ワット・サケットは、14世紀にラーマ3世がアユタヤにあるワット・プー・カオトーン（黄金の山）をモデルに人工の丘をつくり始めました。その後ラーマ4世が仏塔を建立、ラーマ5世が完成させるという、長い年月をかけて築き上げたものです。

仏塔まではらせん階段で上がることができるのですが、それは344段もあります。タイの炎天下のなかを



特徴ある笑顔で楽しませてくれるお地藏さん

排水溝やブレーカーの脇、茂みの中にいらっしゃるので、探しながら上がると楽しいです。そして、この笑顔。微笑んでいるというレベルではないです。かわいい、無邪気、ちょっと独特、と印象は人それぞれでしょう。

見どころ満載の仏塔、そこからの絶景

鐘やお地藏さんを眺めながら進むと、意外とあっという間に頂上の仏塔に到着です。ゆっくり上っても20分程度でしょう。

仏塔の内部も見どころ満載です。金箔で覆われた涅槃像の見事な輝き。参拝者は親指程度の金箔を少しずつ貼っていくのが習わしです。

仏塔の中央にある、更に数段の階段の上、ひときわ丁重に祀られた仏殿。ここにラーマ5世が、スリランカから献上された仏舎利が納められているのです。

そして頂上で待っている絶景がこちらです。首都バンコクを360°一望できるのです。高層ビル、住宅街、



見事な輝きを放つ釈迦の涅槃像



仏塔の中央に丁重に祀られている仏舎利



これが頂上から絶景、バンコクを一望

お寺、近代的なものから、歴史を感じさせるものまでが一つのパノラマに収まっています。高所からの景色が大好きなタイの人たちも、この絶景を見たくて階段を上がっているのです。

将来の夢を一心に祈る大学生



将来は医者を目指す優秀な大学生たち

真剣な表情でお祈りしていた3人の女性にお話を聞いてみました。3人とも国立のシーナカリンウィロート大学の学生さん。タイ全土の大学ランキングで上位に入る優秀な大学です。

「昨日やっとテストが終わったので、みんなでお参りにきました。このお寺は初めてですが、お寺にはよく行きますよ。今日はここで四ヶ所目です。」

--- タイの若い人はどんなことをお参りするのですか？

「健康のこと、事故がないように、成績がよくなるように。でもやっぱりお金持ちになりたいとか、恋愛のことをお願いしてる人も多いと思いますよ。」

--- 大学ではどんな勉強してるのですか？

「私たち3人とも医学部なんです。将来はたくさんの人を助けられる医者になれるようにお祈りしました。もちろん勉強も怠りませんよ！」

齋藤 浩司 (さいとう こうじ)

株式会社B-WAY グループ 代表取締役

互助会から葬儀社を経て2001年同社創業。2002年に葬送支援NPO法人を創設。2010年には宗教法人を新規認証。CSR活動として、

2007年お寺で余ったお供え物を困窮世帯へ届けるフードバンクを設立。2013年からは東南アジアの貧しい子どもたちへの生活・教育支援を開始し、現在はカンボジアのスラムで孤児院と幼稚園を運営。活動時に各国の聖地を訪れ、宗教家や現地の人々から文化を学んでいる。東京都新宿区出身。

